



福岡県行政書士会 各部・委員会紹介

第8回 建設環境部

2026年5月発行
福岡県行政書士会
広報部

福岡県行政書士会は、行政書士の業務の改善や進歩を通じて、国民の皆様のお役に立てるよう日々各業務に取り組んでいます。こうした会の運営を支えているのが、所属する行政書士たちです。本業と並行しながら「会務」を担い、会の円滑な運営や社会貢献活動の推進に力を尽くしています。

第8回は、さまざまな研修を通じて会員の業務受託を支えている「建設環境部」。今回は、活動の実情とやりがい、今後の展望について伺ってきました。

建設環境部

【部長】 紫垣 大輔

【副部長】 持留 仁志
賀門 康志
井手 傑
池田 幸絵



～ 建設環境部は「声を制度へ、学びを実務へ 動かす推進力」 ～

広報部（以下「広」）：本日は部長をはじめ副部長の皆さんにもお集まりいただいております。よろしくお願ひします。まずは、建設環境部がどのような目的や役割を担っているのか教えてください。

紫垣部長（以下「紫」）：建設環境部は建設業法と廃掃法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）を主な管轄として、会員が円滑に業務を行える環境づくりを目的としています。会員の意見を取りまとめて行政に提言したり、さまざまな研修を企画・運営しています。

広：具体的にどのような活動をされているのでしょうか。

紫：建設業法に関しては、建設業許可や経営事項審査などの研修を行っています。年間を通して研修を行い、毎月の指名願ひの調査、定期的な福岡県との協議会、建設業の無料相談会を行っています。相談会は相談員の方にご協力いただひて月2回福岡・北九州・飯塚・久留米の各県土整備事務所でを行っています。

広：先月も県の建築指導課を訪問されたと聞いています。

紫：今回は例外的な対応で時間も限られていたため、部員全員での訪問ではありませんでしたが、県が出した改正の内容に関して、会員の皆様から色々なご意見をいただきましたので、その声をお届けするために訪問しました。貴重な意見を反映できるように何度も県を訪問することで、より良い方向に進んでいるのかなと思っています。引き続き、県とのやり取りを通して県会（福岡県行政書士会）会員の皆様の言葉を届けようと思っています。普段は、基本的に田中副会長、部長、副部長と、全員で動いています。



広：直近で実施された、もしくは実施予定の事業やイベントにはどのようなものがありますか。

紫：建設環境部では、実務家を育成するための研修に力を入れていきたいと思っています。

まだ予定段階ではありますが、基礎的な研修は動画化し、皆さんにいつでも観ていただけるようにしたいと思っています。さらに、実務的な研修は、実際に業務を受けて出てきた疑問点を話し合ったり、今までに扱ってきた特殊な申請の事例を共有する場を設けたいと考えています。基礎と実践の両面から強化し、自信を持って業務を受託できるような研修をしていきたいです。

広：初心者としては基礎的な研修動画での受講に興味があります。

紫：昨年度は、入会者向けの基礎的な研修を5回シリーズで行いました。午前と午後の長丁場の研修で、ウェビナーを行わず対面のみで行ったのですが、多い時は50人近い方々に受講していただきました。午前中は座学、午後はワークみたいな感じで実際に申請書などを作成してもらいましたが、会場では皆さんの熱量を感じながら実施いたしました。

今回のシリーズ化した中でさまざまな課題も出てきたので、前回の内容を踏まえてさらにブラッシュアップし、今年度も7月以降に実施する予定です。

広：部内ではどのように意見を出し合って、まとめているのでしょうか。

紫：今回 私の部長就任にあたり、各地区で建設業務に携わっている先生方を紹介してもらい副部長就任をお願いしました。筑豊地区は池田先生、北九州地区は賀門先生、筑後地区は井手先生、福岡地区は私と持留先生というように、各地区からメンバーを選任しています。

基本的に皆さん、建設業の仕事を長くされているので、その関連の話で盛り上がることが多いです。「建設業に関して今どんな感じで申請しているのか」「過去にこういう申請があって、こういうやり方をしました」とか。とにかく話は尽きません。その中で改善案が出てきたり、あとは会員の皆様の意見をまとめたところで県に意見を届けるということもしています。

広：具体的に意見が反映されて改善したことはありますか。

紫：以前から継続して福岡県に要望していた、決算終了後の変更届に添付を求められていた「理由書」について、最近ようやく提出不要となりました。意見をあげてくださった会員の先生方と建設環境部員の方々が継続して働きかけたのがこの結果につながったと考えております（※参考）。ほかにも要望としては結構細かいことが色々あるのですが、県にその要望が通っている例もありますし、なかなか難しいということもあります。そこは引き続き、県に働きかけ続けたいといけないと思っています。ただ、会員の皆様の意見は、ちゃんと尊重して基本的に全部お届けしていますので、その点をご安心いただければと思っています。

広：他の部との連携や協力について何か考えられていることはありますか。

紫：例えば、特定技能外国人を雇用する時、建設業においてはCCUS（建設キャリアアップシステム）の登録や、国土交通省への建設特定技能受入計画の申請等が必要となります。外国人雇用と建設業は切っても切れない業務になっているため、国際渉外部とまた一緒にセミナーができたらいいなと考えています。また農林開発部とは開発時に建設業も関係してきますし、他の部と関係してくる内容についてはセミナー等での連携の可能性は考えています。

広：特定技能や技能実習など外国人業務をやっている中で、建設業は難しいというイメージが先行してしまいます。

紫：特定技能外国人や技能実習生が建設業の業務に従事するためには、建設業許可を取得している事業所である必要があり、さらにCCUSの技能者登録しなければならないというステップがあります。これはやっていない方にはなかなか難しい。その場合は、協力し合って、建設業が得意な先生が許可関係をやって、外国人業務が得意な先生は在留資格関係をやるとか、タッグを組んでやっていくということも考えられると思います。

広：その第一歩を踏み出すためにはどうするのが一番良いでしょうか。

紫：やっぱり精通している会員の先生にまずお尋ねするのがいいと思います。
田中副会長や私でもいいですし、各地区の副部長に聞いてもらっても全然構いません。

広：ありがとうございます！それはとても心強いですね。

広：続いて、建設環境部の活動を通して、それぞれが感じる「やりがい」について教えてください。

池田副部長（以下「池」）：普段の業務だけでは得られない情報に触れられる点が魅力です。

賀門副部長（以下「賀」）：共通の話題で議論が盛り上がるのがとても楽しいです。

井手副部長（以下「井」）：他の先生方と情報交換ができるのは大きなメリットだと感じています。

持留副部長（以下「持」）：県の建築指導課の担当者と直接話せる機会があり、要望のやり取りをしたり、先行して今後の方針に触れたりできる点が魅力です。

広：思い出深いイベントや企画があれば、教えていただけますか。

紫：やはり、昨年度の入会者向け基礎研修を全員でやり切ったことです。
部員全員が講師を務め、それぞれ資料を作成し、一日を通して研修を担当しました。
準備段階から研修終了まで一体感を持って取り組めたことが、特に印象に残っています。

広：今後、建設環境部として取り組みたいことや目指している方向性について教えてください。



紫：建設業や産廃関係の業務に、より多くの会員の皆様に取り組んでいただきたいと思っています。

行政書士の関与率はまだ十分とは言えず、依頼するのが当たり前という流れをさらに広げていく必要があります。
そのためにも、研修を通じて知識や経験を積み、自信を持って業務を受任できる環境づくりを進めていきたいと考えています。

広：最後に、登録年次の浅い行政書士の方にメッセージをお願いします。

池：情報の更新スピードがどんどん上がっているので、乗り遅れないようにしていただけたらと思います。

賀：まずは研修などに積極的に参加して、学んでいただきたいです。

井：同業の先生方とのつながりを大切にして、情報交換しながら学んでいくことが成長につながると思っています。

持：建設業は仕事が安定しやすい分野です。ひとつの会社とつながりができると、更新や変更届、経営事項審査など継続的に業務が発生します。登録年次の浅い方も積極的に業務受任を目指して、その仕事をしながら他の相続や外国人業務にも広げていくことで、安定した事務所経営につながると思います。

紫：建設業は長年携わっていますが、とても面白く、奥の深い仕事です。また、他分野との組み合わせによって、業務の幅を広げることができます。怖がらずに、まずは一件取り組んでみるのが大切だと思います。研修を受けて知識の向上を目指していくことももちろん大事ですが、分からないことがあれば、周りの先生方に相談しながら進めていくことで、着実に力が身につけていきます。ぜひ積極的にチャレンジしていただければと思います。

【※参考】決算変更届に添付する工事実績がない業種の理由書は提出不要となりました。
(令和8年3月11日付通知)

～広報部あとかき～

建設業者と行政書士の関係は、単なる業務の受任にとどまらず、長期的な信頼関係の構築が重要だといわれています。今回の取材を通じて、建設環境部が研修や制度提言を通じて、会員の皆様の業務を支えていることを実感しました。また、部員の皆様が日頃から活発に意見交換を行い、チームとして活動されている姿も印象的でした。建設業務は難しいというイメージもありますが、その一歩を支える仕組みとつながりがある分野であることが伝わる取材となりました。(取材日2026年4月15日)



右奥から(時計回りに) 田中副会長、紫垣部長、賀門副部長、池田副部長、井手副部長、持留副部長